北の住まいるタウン

北の住まいるタウンレポート Vol.1

資料１

令和７年度

まちづくりメイヤーズフォーラムの開催報告

テーマ　持続可能なまちの実現に向けた未来戦略

●基調講演
「めぐり歩いて楽しいまちと建築」
有限会社ナスカー級建築士事務所
早稲田大学 栄誉フェロー・名誉教授　古谷 誠章氏

●特別講演
「持続可能なまちにするには何が大切なのか」
国土交通省都市局 都市環境課 課長補佐　今 佐和子氏

●事例紹介
「次世代に繋ぐ『共創・共働』のまちづくり」
沼田町長　横山 茂氏

「次の１００年を創造する地域の家族と繋がりをつくる
～既存資源のシェアリングによるワーケーション促進・超長期的関係人口創出～」
厚沢部町長　佐藤 正秀氏

「『うらほろスタイル』が過疎地域を変える」
浦幌町長　井上 亨氏

●パネルディスカッション
〇コーディネーター　北海道大学 理事・副学長　瀬戸口 剛氏
〇パネリスト　古谷 誠章氏、今 佐和子氏、横山 茂氏、佐藤 正秀氏、井上 亨氏

日 時　令和７年
10月24日（金）
14：00～17：00

会 場　札幌ビューホテル
大通公園　地下２階
ピアリッジホール
※オンライン併用開催

参加者　２２２名
会場147名
オンライン 75名

●基調講演：「めぐり歩いて楽しいまちと建築」

建築は、健全な環境を保つことで良いものになり得る一方、まちづくりに大きな影響をもたらします。これまでに関わってきた公共施設の建築に当たっては、住民と意見を交わしながら、歩く楽しみや多様な活動・多世代交流を生み出す仕掛けづくり、観光客に魅力のある空間形成などについて検討を行いました。まちづくりにおいては、建物の中の活動が外からも見え、その一部が開放され、「人の出会い」を生むことが重要です。私が設計した沼田町（裏面参照）の公共建築「あるくらす」もその一つです。また近年は、通信インフラ等を活かし、ニセコ町のルピシアのような、企業（本社）の地方移転といった動きも見られ、建築が地方のまちづくりや景観に貢献する事例も増えてきています。

古谷　誠章　氏

●特別講演：「持続可能なまちにするには何が大切なのか」

都市において「街路」は、誰もがアクセスできる最も基礎的な公共空間です。そして都市の本質は交流であり、その中で、街路は重要な役割を果たします。コロナ禍を経て、世界の潮流は「車中心の社会」から「人中心の社会」に向けて動いており、今後、まちづくりにおける重要なキーワードは「**W**alkable(歩きたくなる)」「**E**yelevel(まちに開かれた１階)」「**D**iversity(多様な人による多様な用途)」「**O**pen(開かれた空間)」だと考えています。最後に、持続可能なまちにするために大切なことは「交流、活動する人、人と人が（偶然）出会える場」と言えます。

今　佐和子　氏

●事例紹介：沼田町

「次世代に繋ぐ 『共創・共働』 のまちづくり」

米をはじめとした農業が盛んな沼田町では、「農村型コンパクトエコタウン構想」の実現を目指し、シンボルとも言える「暮らしの安心センター」を建設。車に頼らず「歩いて暮らせるまち」をコンセプトに、沼田駅周辺を中心とした半径約５００ｍの範囲内に学校、診療所、スーパー等を集約し、子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちづくりを目指しています。また、新たな挑戦として、ＩＣＴ活用による健康づくり・見守り支援事業を考えています。

横山　茂 氏

●事例紹介：厚沢部町

「次の１００年を創造する地域の家族と繋がりをつくる

～既存資源のシェアリングによるワーケーション促進・超長期的関係人口創出～」

「世界一素敵な過疎のまち」を目指す厚沢部町では、保育園留学という先進的な取組を進め、地域と国内外の子育て家族を繋いで関係人口を創出するとともに、地域活性・雇用創出等の効果を生み出しています。また、保育園留学を経て、こども園に毎日通いたい、厚沢部町に住みたいと思ったご家族に向けて、ライフスタイルに合わせて地域に移住する「やわらかな定住」で利用できる住宅の整備、小学生向けの体験留学の試行などを行っています。

佐藤　正秀 氏

●事例紹介：浦幌町

「『うらほろスタイル』が過疎地域を変える」

農林漁業が全て揃っている浦幌町では、子どもにまちの自然や産業・食文化を知ってもらい、世代を超えた人々との繋がりを創出する「うらほろスタイル推進事業」を進めています。例えば、農林・漁業体験、民泊体験、地域参画などの取組を進めてきたこともあり、近年、20代では転入者数が転出者数を上回り、町出身の若い世代が当事者意識を持って、町内外で活躍している状況がみられます。また、この取組を知った海外の方が次世代を軸にしたまちづくりについて関心を寄せ、視察に訪れました。

井上　亨　氏

●パネルディスカッション

今後の人口減少下においては、脱炭素化を図り北海道の優位性を考えながらコンパクトで持続可能なまちづくりを進めていくことが重要です。パネルディスカッションでは、持続可能なまちの実現に向け、豊かな自然、社会やまちづくりへの子どもの参画、教育、多様な世代との出会いや交流を生み出し歩いて暮らせるまちづくりの重要性などについて活発な意見交換が行われました。
このほか、フォーラムに参加された首長の皆様に、まちの課題や取組状況、本フォーラムの感想などについてお話をお聞きしました。

瀬戸口　剛　氏

ー 参加された首長の皆様 ー

夕張市長 厚谷 司氏　**美唄市長** 桜井 恒氏
恵庭市長 原田 裕氏　**知内町長** 西山 和夫氏
月形町副町長 藤原 栄一氏

さまざまな意見が交わされたパネルディスカッションのようす

「北の住まいるタウン」の取組の内容についてまとめたガイドブックをＷＥＢでご紹介しています

発行：北海道（建設部 建設政策局 建設政策課）　電話011-231-4111　内線29-671　（担当：上山）
編集：『「北のすまいるタウン」普及啓発業務』受託事業者：日本データーサービス株式会社
https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/kks/kitasuma_top.html
2025年12月発行